

おわりに

兵庫ワイルドライフモノグラフ 14号では「兵庫県におけるツキノワグマの保護管理の成果と広域管理」をテーマに、これまでの行政施策と研究成果の振り返りを行いました。過去のモノグラフにおいてクマをテーマとしたものとしては、2011年に発刊した3号「兵庫県におけるツキノワグマの保護管理の現状と課題」以来となります。2011年当時は、大量出沒という大きな課題に直面しつつ、モニタリング体制の構築とデータの収集分析によって、兵庫県のツキノワグマの状況が徐々に明らかになってきた時期と言えます。その後約10年の間に、クマと人を取り巻く状況は大きく変化してきました。個体群の保全と被害の抑制の両立は一貫した課題ではありますが、個体数の増加に伴い絶滅の危険性が低くなった一方で、分布拡大や出沒の増加への対応の必要性が高まり、有害捕獲の強化や狩猟の再開など保護管理方針の転換期であったと言えます。

兵庫県ではこの変化する状況に対して、徹底的なモニタリングデータの収集と分析を行うことで、生息状況評価に基づく順応的な管理を実施してきました(第2章)。個体数推定(第4章)や出沒予測(第5章)については、データ収集と分析が進むことで、かつてに比べてその精度も大きく向上してきました。捕獲個体の増加に対してどのようにモニタリングを行うか(第3章)、住宅地への出沒の増加にどのように対応するか(第7章)といった新たな課題についても、研究者や行政関係者が連携しながら対応してきました。

今回のモノグラフでは、新たな手法に基づく生態解明の検討(第6章)や、捕獲個体の病理分析からの症例報告(第8章)といった知見も紹介できました。前回のモノグラフで紹介した行動分析や遺伝子分析にも進展が見られており、近い将来その成果を公表・施策へ還元すべく研究を進めています。

第1章で紹介した広域管理は始まったばかりの取り組みですが、府県境をまたがるツキノワグマ地域個体群に対する保護管理という、兵庫県単独では達成できない課題への挑戦となっています。兵庫県が培ってきたノウハウや蓄積されたデータは、保護管理の状況が異なる府県が連携しながら進める課題の解決や、地域におけるクマと人との共存を考える上で、役立つものと信じています。

最後になりましたが、査読責任者の山端主任研究員をはじめ論文査読に協力いただいた方々、分析の基盤となった過去からのデータの蓄積にご尽力いただいた方々、兵庫県のツキノワグマの保護管理に尽力くださった全ての方々にこの場を借りて感謝したいと思います。

兵庫ワイルドライフモノグラフ 編集委員会
責任編集者 高木 俊

兵庫ワイルドライフモノグラフ 14 号

特集「兵庫県におけるツキノワグマの保護管理の成果と広域管理」

2022 年 3 月 31 日 印刷

2022 年 3 月 31 日 発行

編集・発行 兵庫県森林動物研究センター
〒669-3842 兵庫県丹波市青垣町沢野 940
印刷 きくもとグラフィックス株式会社